

# 福祉理美容士育てたい

人は理美容師と准看護師の資格を持ち、協立病院（帯広）で勤務しながら同協会全国講師会会長として東北の被災地なども含め国内各地で育成に当たっている。「寝たきりの高齢者も気持ちよくきれいになれるように、高度な理美容技術を身に付けてほしい」と講座への参加を呼び掛けている。

## 8月、帯広で養成講座

森田さんは理美容師歴33年、美容師歴32年。妻の悦子さんが看護師として市内の病院で働いている縁から、病院への訪問理美容を25年前に始めたが「硬直した患者さんの首を動かしても大丈夫なのか。病気の人をどう扱っていいのかわからない」と訪問理美容はできない」と考え、准看護師の資格を10年前に38歳で取得した。病院で准看護師として勤務しながら訪問理美容もする豊富な経験を買われて、10年前から同NPO法人の講師で全国のリーダーを務めている。森田さんが育成した福祉理美容士は、呼吸器を着けて寝返りもできない人の頭の裏のヘアカットやパーマ、髪の色めなども見事にこなす。シャンプーも紙おむつを使って1リットルの水で行える。「頭の裏は見えないからとカットを省略したり、施設職員や介助者が扱いやすいように、ただ短く刈り上げただけの『施設カット』にしたりするのはなく、人として尊重されるための理美容の普及を進める。帯広での講座は7年目となり、これまで道内外の約70人を養成してきた。

### NPO講師の森田さん



訪問理美容で使う道具を手に、「福祉理美容士の技術を身に付けてほしい」と受講を呼び掛ける森田さん

## 高度な技術身に付けて

講座ではまず約1カ月間、テキストで自宅学習して解答問題用紙を提出する。続いて2日間の講習を受け、高齢者・障がい者の心理と特性、コミュニケーションの方法、安全・衛生管理、感染症の予防と疾患への理解などの座学と、車いすやベッドでの介助方法、訪問理美容でのシャンプー・カット・編みなどの実技で学ぶ。受講料は2万7000円。定員20人。申し込みは7月20日締め切り。

森田さんは「自宅で介護を受ける高齢者が増え、介護度も重い人が多くなっている。利用者の心に寄り添う福祉理美容士の活躍の場は広がっている」と訴える。同資格の詳細は日本理美容福祉協会のホームページに掲載している。講座の問い合わせ・申し込みは森田さん（090・1386・6311）へ。

（横田光俊）

福祉

